# 一般グラフのマッチングとその周辺

高澤 兼二郎

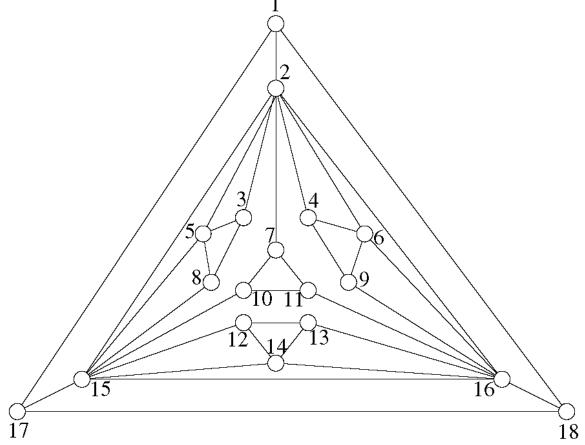
京都大学 数理解析研究所

第 11 回 組合せ最適化セミナー 2014 年 7 月 30 日

# 今日の目標

(1) 最大マッチングをひとつ示せ

(2) それが最大マッチングであることを示せ (= それよりも大きいマッチングが存在しないことを示せ)



Goemans 2013



- ◆ 2部グラフのマッチング
- ➤ Kőnig の定理
- ▶ 増加道アルゴリズム

- ◆ 一般グラフのマッチング |
- ➤ Tutte-Berge 公式
- ➤ Edmonds のアルゴリズム
- ➤ Edmonds-Gallai 分解

- ◆ 2部グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- > 完全単模性

- ◆一般グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- ➤ 完全双対整数性 (Cunningham-Marsh公式)

◆周辺の話題

# マッチング問題

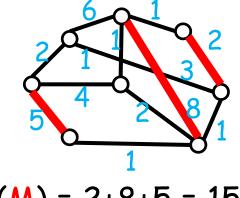
無向グラフG = (V, E) 枝重み $w: E \rightarrow R_+$  頂点集合 | 「枝集合 |

定義

」М⊆Еが マッチング

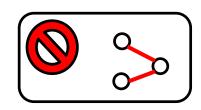


Mの枝は端点を共有しない



w(M) = 2+8+5 = 15

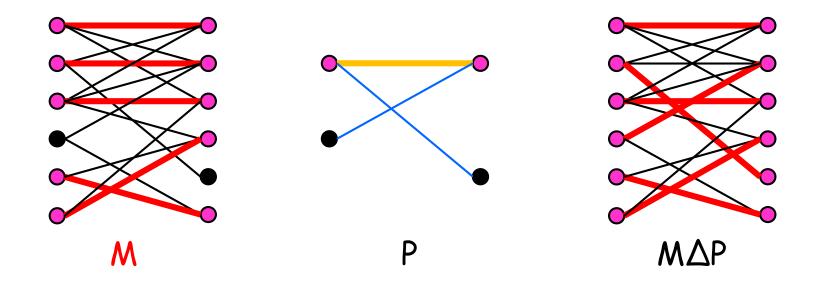




 $W(M) = \sum_{e \in M} W(e)$  最大のマッチング M を求めよ

◆ 多項式時間可解 Edmonds 1965 など

# 交互道



\_\_\_\_\_Mに関する<mark>交互道: M と E-M</mark> の枝が交互に現れる道

Mに関する<mark>増加道</mark>: 交互道で,両端点がMに接続しない

P が M-増加道 → M' = M△P = (M - P)∪(P - M)はマッチングで |M'| = |M|+1

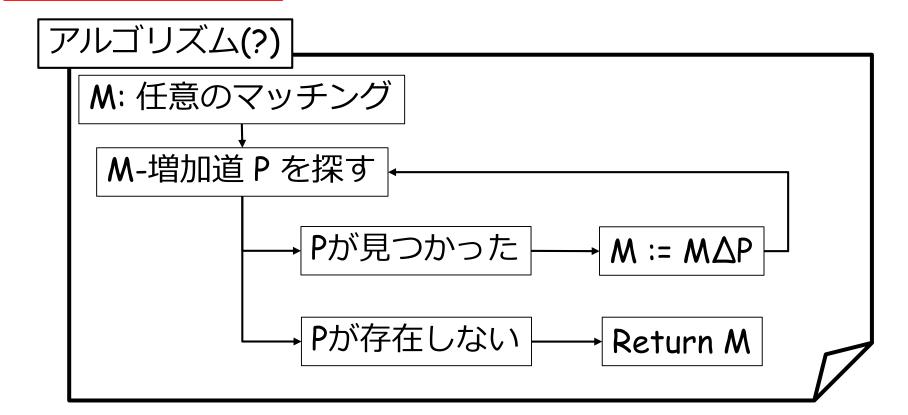
# 増加道アルゴリズム (?)

定理

M が最大マッチング



【演習】証明せよ



# 存在しないことの証明

定理

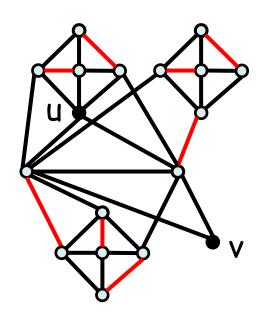


M が最大マッチング 🥽 M-増加道が存在しない

「○○が存在しない」ことを説明するには・・・??

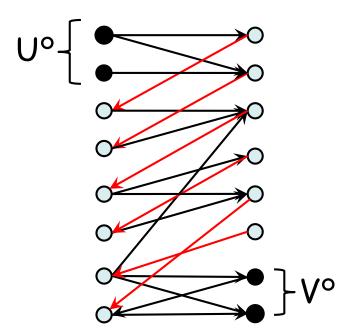
:(^\_^;) 「探したけど増加道ありません」 (°⊿°) 「は? ちゃんと探せや」

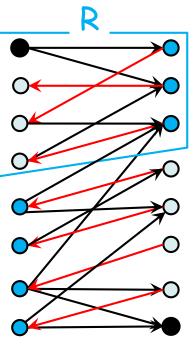
(^O^) 「全探索したけどありません! (u → v の全頂点列ドバー)」 (°△°) 「こんなにたくさんチェックできん, やり直しし



## 2部グラフの場合

- $G = (U \cup V, E)$ 
  - ➤ E M の枝: U→V の向き付け
  - M の枝: V→U へ向き付け
- ➤ M-交互道 (二) 有向道
- ➤ M-增加道 U°-V° 有向道
- ➤ M-増加道が存在 ⇐⇒ U°からV°へ到達可能
- ▶ R := U°から到達可能な頂点の集合
   R ∩ V° = Ø → M-増加道は存在しない
   → M は最大マッチング

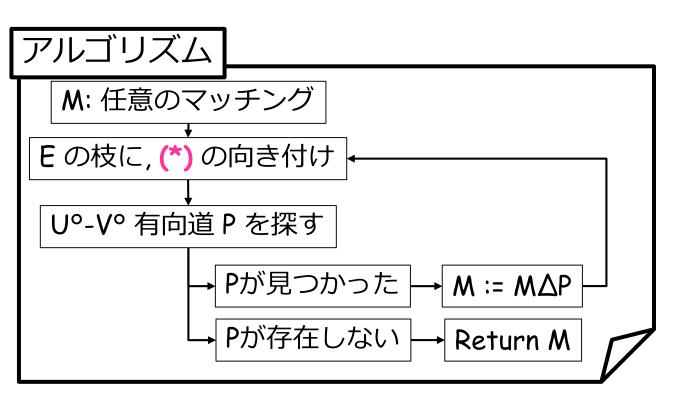


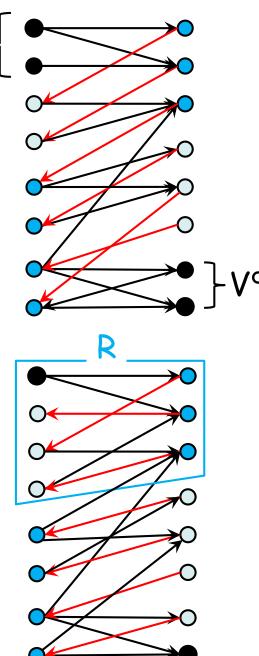


# 2部グラフのアルゴリズム

- $G = (U \cup V, E)$ 

  - E M の枝: U→V の向き付けM の枝: V→U へ向き付け





# マッチング と 点被覆

#### 定義

<u>C⊆U∪Vが 点被覆</u>

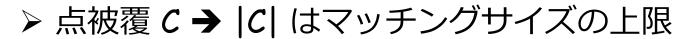


Eのすべての枝は Cに端点をもつ

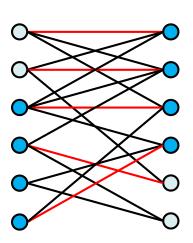


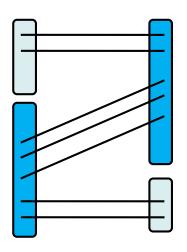
命題 | M はマッチング, € は点被覆

**→** |M| ≤ |C|



➤ |M| = |C| が成立すれば 「M は最大マッチング Cは最小点被覆



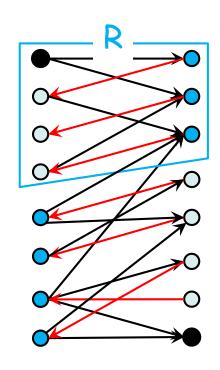


## 最大マッチング と 最小点被覆

アルゴリズム終了時: U°-V° 有向道なし

R⊆U∪V:U°から有向道で到達可能

 $C := (U - R) \cup (V \cap R)$ 



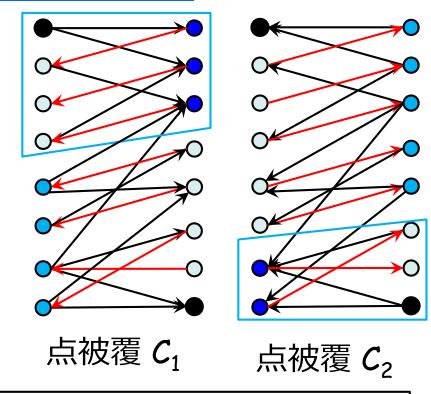
定理 [Kőnig 1931]

max{|M|: M はマッチング} = min{|C|: C は点被覆}

## 最小点被覆全体の構造: DM分解

#### Dulmage-Mendelsohn 分解

- ▶ C⊆U∪V が最小点被覆
  - **→** ∈ *C*
  - •
  - .



 $C_1$ ,  $C_2$  はともに最小点被覆

- 浅野: 情報の構造 上. 日本評論社, 1994
- ▶ 伊理, 藤重, 大山: グラフ・ネットワーク・マトロイド, 産業図書, 1986
- ➤ K. Murota: *Matrices and Matroids for Systems Analysis*, Springer, 2010

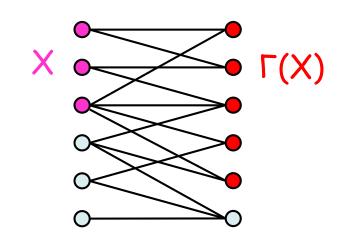
# 完全マッチングの存在判定

定理 [Hall 1935]

G が完全マッチングをもつ 〈⇒〉 |Γ(X)| ≥ |X| ∀X⊆U

#### 【演習】証明せよ

$$G = (U \cup V, E), X \subseteq U$$
  
 $\Gamma(X) := \{ v \in V : \exists u \in X, uv \in E \}$ 



# ここまでのまとめ

- 最大マッチング 〈 増加道が存在しない
- 存在しないことの証明は (一般には) 難しい
- 2部グラフ: 向き付け + パス探索 で存在判定可能
- 最大最小定理による最適性の証明

max{|M|: M はマッチング} = min{|C|: C は点被覆}

- $\int$   $\triangleright$  max ≤ min を示す  $\triangleright$  |M| = |C| をみたす M, C 求めるアルゴリズムを設計
- → max = min の証明 & アルゴリズムの正しさの保証



- ◆ 2部グラフのマッチング
- ➤ Kőnig の定理
- ▶ 増加道アルゴリズム

- ◆ 一般グラフのマッチング |
- ➤ Tutte-Berge 公式
- ➤ Edmonds のアルゴリズム
- ➤ Edmonds-Gallai 分解

- ◆ 2部グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- > 完全単模性

- ◆一般グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- ➤ 完全双対整数性 (Cunningham-Marsh公式)

◆周辺の話題

# 一般グラフのマッチング

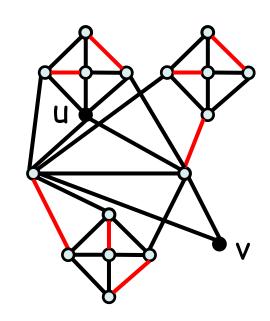
定理

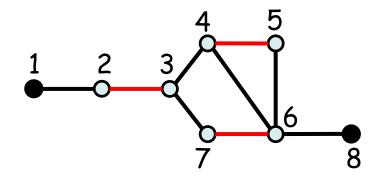
M が最大マッチング



M-増加道が存在しない

- > 一般グラフでも成立
- ▶ 増加道の探索・存在判定 が難しい
  - 向き付けができない
  - 各枝はどちら向きにも通れる





探索: 1→2→3→4→5→6→7 ...

→増加道なし??

Tutte 1947, Berge 1958

#### 定理 [Tutte-Berge 公式]

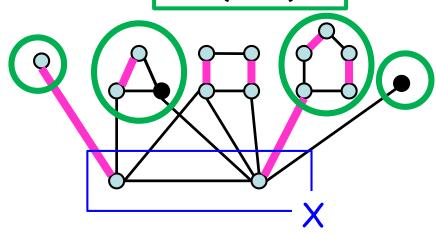
max {|M|: M はマッチング}

 $= \min_{X\subseteq V} \frac{1}{2} \{|V| + |X| - odd(V - X)\}$ 

- > max ≤ min
- ▶ 等号でみたす M, X
- → M, X は最適解

頂点数奇数の成分数

odd(V-X)=4



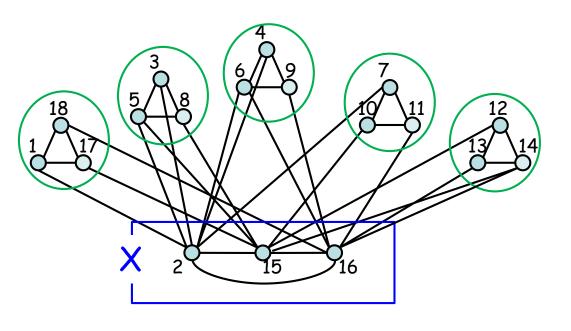
定理 [Tutte の定理]

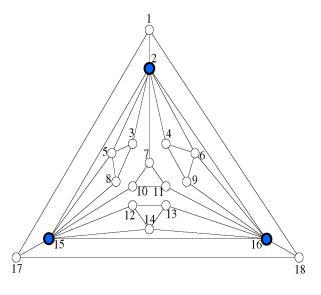
Gが完全マッチングをもつ

$$\langle \longrightarrow \rangle$$
 odd $(V - X) \leq |X| \quad \forall X \subseteq V$ 

#### 冒頭の問題の 答え

$$X = \{2, 15, 16\} \rightarrow \text{odd}(V-X) = 5$$



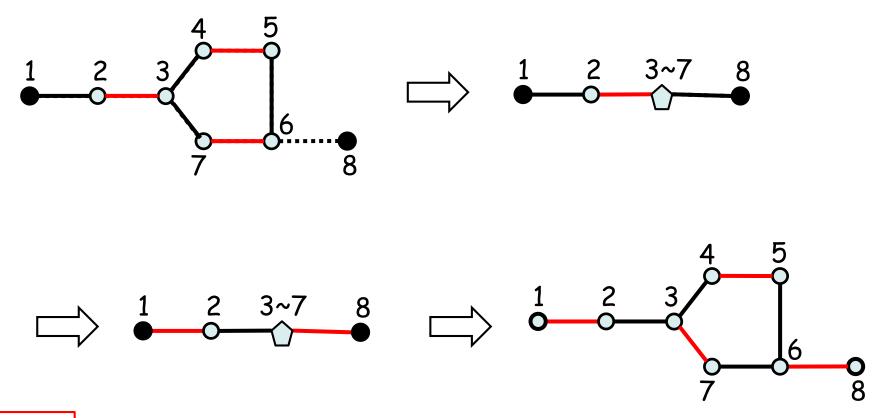


 $\forall M, |M| \le (|V| + |X| - odd(V-X))/2 = (18 + 3 - 5)/2 = 8$ 

→ |M|=8 のマッチングMが見つかっていれば最適解 (Xも最適解)

## ブロッサム・アルゴリズム: 縮約・増加

Edmonds 1965



命題

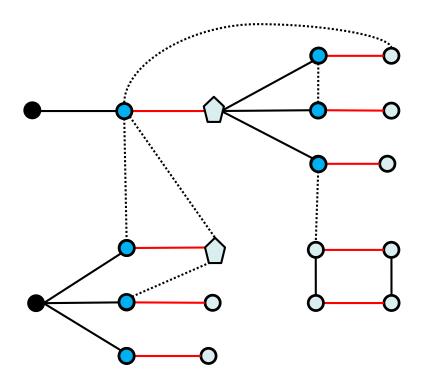
∀奇閉路 C は factor-critical

∀v, C - v は完全マッチングをもつ

# ブロッサム・アルゴリズム:終了時

#### Edmonds 1965

- **X = {●から奇数長の交互道で** たどり着く頂点**}**
- →  $|M| = \frac{1}{2} (|V| + |X| odd(V-X))$
- → M, X はそれぞれ最適解
  Tutte-Berge 公式の構成的証明



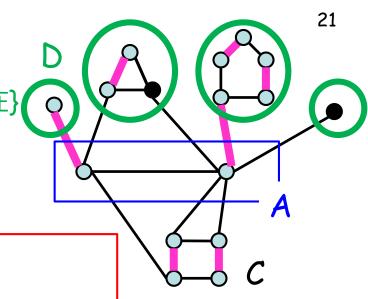
D = {v∈V: v を被覆しない最大マッチングが存在}<sub>ℓ</sub>

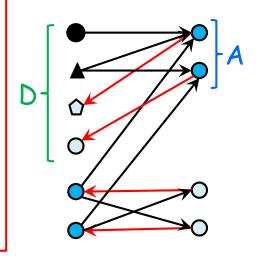
**A = {v∈V-D**: vはDの頂点に隣接**}** 

C = V - D - A

定理 [Edmonds-Gallai 分解]

- (1) G[D] の連結成分は factor-critical
- (2) *G*[*C*] は完全マッチングをもつ
- (3) C を削除, E[A] を削除, G[D] の連結成分を縮約 して得られる2部グラフにおいて,  $\Gamma(X)$   $|X| \ge 1 \ \forall X \subseteq A$
- (4) M: G の最大マッチング →
  - M[D]: 各連結成分の near-perfect matching
  - M[C]: G[C] の完全マッチング
  - M[A]: A の頂点は D の異なる連結成分とマッチ
- (5)  $max{|M|} = (|V| \#component(D) + |A|)/2$





# ここまでのまとめ

- 最大マッチング 〈 増加道が存在しない
- 一般グラフ: 増加道の存在判定は難しい
- 最大最小定理による最適性の証明

$$\max\{|M|: M はマッチング\} = \frac{1}{2} \min\{|V| + |X| - \text{odd } (V-X)\}$$

- ∫ > max ≤ min を示す> 左辺 = 右辺 をみたす M, X 求めるアルゴリズムを設計
- → max = min の証明 & アルゴリズムの正しさの保証



- ◆ 2部グラフのマッチング
- ➤ Kőnig の定理
- ▶ 増加道アルゴリズム

- ◆ 一般グラフのマッチング
- ➤ Tutte-Berge 公式
- ➤ Edmonds のアルゴリズム
- ➤ Edmonds-Gallai 分解

- ◆2部グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- > 完全単模性

- ◆一般グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- ➤ 完全双対整数性 (Cunningham-Marsh公式)

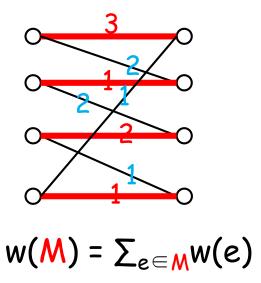
◆周辺の話題

# 2部グラフの重みつきマッチング

$$G = (U \cup V, E)$$
  
w:  $E \rightarrow \mathbf{R}_{>0}$ 

#### 問題

- ៊> w(M) 最大のマッチング M
- > w(M) 最小の完全マッチング M



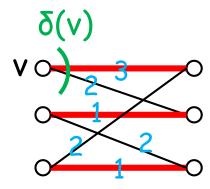
➤ 多項式時間可解 (Hungarian method など)

## 最小重み完全マッチングの整数計画表現

変数 **x**∈{0,1}<sup>E</sup>: マッチングの特性ベクトル

$$\begin{cases} x(e) = 1 \rightarrow e \in M \\ x(e) = 0 \rightarrow e \in E - M \end{cases}$$

 $> w(M) = \sum_{e \in M} w(e) x(e)$ 



 $x = (1 \ 0 \ 1 \ 0 \ 0 \ 1)$ 

**IP**<sub>min</sub>

minimize  $\sum_{e \in E} w(e) x(e)$ 

subject to 
$$\sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1$$
  $\forall v \in U \cup V$   $x(e) \in \{0,1\}$   $\forall e \in E$ 

## 線形計画緩和 と 整数最適解

```
\begin{array}{|c|c|c|c|}\hline LP_{min} \\ \hline & minimize & \sum_{e \in E} w(e) \ x(e) \\ \hline & subject to & \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 & \forall v \in U \cup V \\ & x(e) \ge 0 & \forall e \in E \\ \hline \end{array}
```

 $\triangleright$  OPT(LP<sub>min</sub>)  $\leq$  OPT(IP<sub>min</sub>)

定理 [Birkhoff 1946 など]

G が 2部グラフのとき, (LP<sub>min</sub>) は 整数最適解 x\* をもつ

(LP<sub>min</sub>) を解いて 整数最適解 x\* を求める
 → x\* は (IP<sub>min</sub>) の最適解
 (最小重み完全マッチングの特性ベクトル)

## 整数性の証明

定理 [Birkhoff 1946 など]

$$\sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 \quad \forall v \in U \cup V$$
$$x(e) \ge 0 \qquad \forall e \in E$$

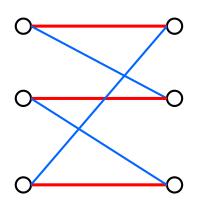
**G** が **2**部グラフのとき, (LP<sub>min</sub>) の制約式は 完全マッチング多面体を定める

#### 【証明】

- x:制約式が定める多面体 Q の端点
- $F = \{e \in E \mid x(e) > 0\}$
- Fが閉路 C を含むとする
  - → C の長さは偶数
  - → C はマッチング M, N の disjoint union

$$\rightarrow$$
 x +  $\varepsilon(\chi_M - \chi_N)$ , x -  $\varepsilon(\chi_M - \chi_N) \in Q$ 

- → x が Q の端点であることに矛盾
- Fは閉路を含まない → x(e) = 1 ∀e∈F



【証明終】

## 最大重みマッチングの線形計画表現

LP

```
maximize \sum_{e \in E} w(e) x(e)
```

subject to  $\sum_{e \in \delta(v)} x(e) \le 1$   $\forall v \in U \cup V$   $x(e) \ge 0$   $\forall e \in E$ 

#### 定理

G が 2部グラフのとき, (LP) は 整数最適解 x\* をもつ, i.e., (LP) の制約式はマッチング多面体を定める

【演習】証明せよ

Hint: (LP<sub>min</sub>) の整数性を使ってよい

#### LP の最適性保証:双対定理

 $\begin{array}{|c|c|c|c|} \hline LP & maximize & \sum_{e \in E} w(e) \ x(e) \\ & subject \ to & \sum_{e \in \delta(v)} x(e) \le 1 & \forall v \in U \cup V \\ & x(e) \ge 0 & \forall e \in E \end{array}$ 

$$\begin{array}{ll} \text{minimize} & \sum_{v \in U \cup V} y(v) \\ \text{subject to} & y(u) + y(v) \geq w(e) & \forall e = uv \in E \\ & y(v) \geq 0 & \forall v \in U \cup V \end{array}$$

- > OPT(LP) = OPT(Dual-LP)
- ➤ (LP) の許容解 x が最適解
  - ← 相補性条件をみたす (Dual-LP) の許容解 y が存在:
    - $x(e) > 0 \Rightarrow y(u) + y(v) = w(e)$
    - $y(v) > 0 \rightarrow \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1$

## 双対最適解 = "最小点被覆" | w(e) = 1 ∀e の場合³へ

#### Dual-LP

minimize 
$$\sum_{v \in U \cup V} y(v)$$
  
subject to  $y(u) + y(v) \ge 1$   $\forall e = uv \in E$   
 $y(v) \ge 0$   $\forall v \in U \cup V$ 

> 最小点被覆問題の線形緩和 √ y ∈ {0,1}<sup>U ∪ V</sup> → y は点被覆の特性ベクトル

命題 (Dual-LP) は整数最適解をもつ

#### 【略証】

- $OPT(IP) = OPT(LP) = OPT(Dual-LP) \leq OPT(Dual-IP)$
- OPT(IP) = OPT(Dual-IP)



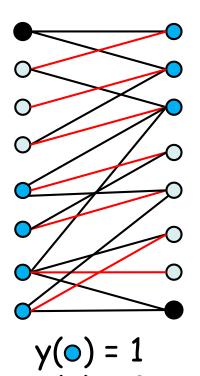
#### 相補性条件

• 
$$x(uv) = 1 \rightarrow y(u) + y(v) = 1$$

• 
$$y(v) = 1 \rightarrow \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1$$

x: 最大マッチング

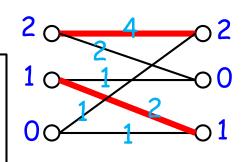
y: 最小点被覆



#### 双対最適解 = "最小点被覆" | w(e)∈Z ∀e の場合³¹



minimize 
$$\sum_{v \in U \cup V} y(v)$$
  
subject to  $y(u) + y(v) \ge w(e)$   $\forall e = uv \in E$   
 $y(v) \ge 0$   $\forall v \in U \cup V$ 



➤ 最小点被覆問題の一般化

定理[Egerváry 1931]

w が整数ならば, (Dual-LP) は整数最適解をもつ

- 相補性条件
  - x(uv) = 1 → y(u) + y(v) = w(e) | x: 最大重みマッチング
  - y: "最小点被覆" •  $y(v) \in \mathbb{Z}_{>0} \rightarrow \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1$

# 係数行列 の 完全単模性

Total unimodularity Totally unimodular

**A**:n×m 行列

定義 Αが 完全単模 (完全単模性をもつ)



A の任意の正方小行列の行列式が 0, +1 or -1

定理 A が 完全単模  $n \times m$  行列,  $b \in \mathbb{Z}^n$ 

→ P = {x | Ax ≤ b} は整数多面体

整数格子点の凸包

定理

A が 完全単模 n×m 行列, b∈Zn, c∈Zm

 $\implies$  max  $\{cx \mid Ax \le b, x \ge 0\} = \min \{yb \mid yA \ge c, y \ge 0\}$ 両辺は 整数最適解 をもつ (※両辺は実行可能とする)

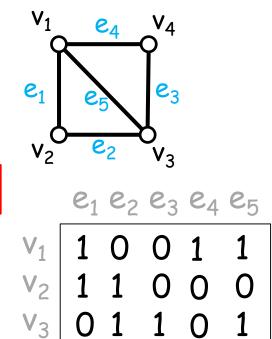
## 接続行列の完全単模性

定理

#### 【演習】証明せよ

 $\begin{array}{|c|c|c|c|c|}\hline \text{maximize} & & & & & & & & & \\ \hline & \text{maximize} & & & & & & & & \\ & & & & & & & & & \\ & & & & & & & \\ & & & & & & & \\ & & & & & & \\ & & & & & & \\ & & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & & \\ & & \\ & & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ & & \\ &$ 

 $A(G) \times \leq 1$ 



線

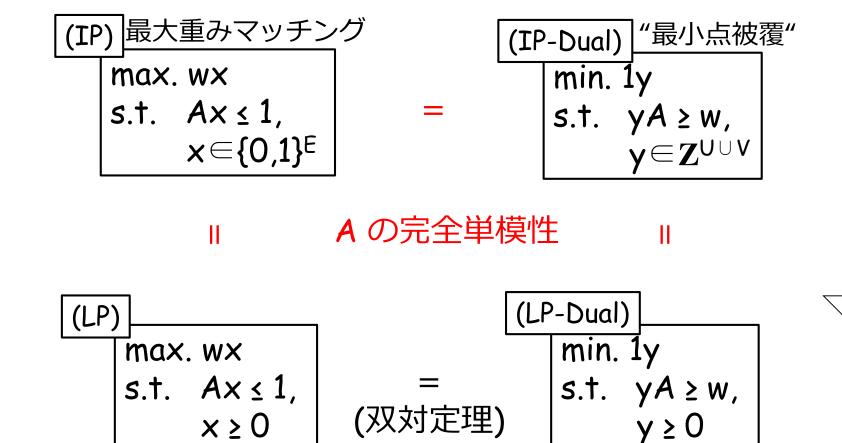
形

緩

和

# ここまでのまとめ

G: 2部グラフ





- ◆ 2部グラフのマッチング
- ➤ Kőnig の定理
- ▶ 増加道アルゴリズム

- ◆ 一般グラフのマッチング |
- ➤ Tutte-Berge 公式
- ➤ Edmonds のアルゴリズム
- ➤ Edmonds-Gallai 分解

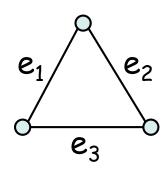
- ◆ 2部グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- > 完全単模性

- ◆一般グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- ➤ 完全双対整数性 (Cunningham-Marsh公式)

◆周辺の話題

## 最小重み完全マッチング

$$\begin{array}{c|c} \hline (IP_{min}) \\ \hline & min. & \sum w(e) \ x(e) \\ \\ & sub. \ to & \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 & \forall v \in V \\ & x(e) \in \{0,1\} & \forall e \in E \end{array}$$



$$\begin{array}{|c|c|}\hline (\times LP_{min})\\\hline min. & \sum w(e) \ x(e)\\\\ sub. \ to & \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 & \forall v \in V\\ & x(e) \ge 0 & \forall e \in E \\ \end{array}$$

 $OPT(IP_{min}) > OPT(\times LP_{min})$ 

(LP): 
$$x = (\frac{1}{2} \frac{1}{2} \frac{1}{2})$$

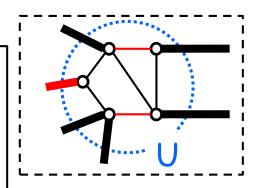
#### 最小重み完全マッチングの線形計画表現

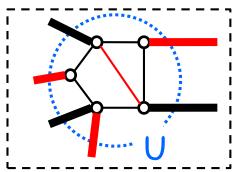
 $\begin{array}{|c|c|c|}\hline (LP_{min}) \\\hline min. & \sum w(e) \times (e) \end{array}$ 

sub. to  $\sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1$   $\forall v \in V$ 

 $\sum_{e \in \delta(U)} x(e) \ge 1$   $\forall U \subseteq V, |U| \text{ is odd}$ 

x(e) ≥ 0 ∀e∈E





定理 [Edmonds 1965]

(LP<sub>min</sub>) は 整数最適解 x\* をもつ i.e., (LP<sub>min</sub>) の制約式は整数多面体を定める

#### 整数性の証明

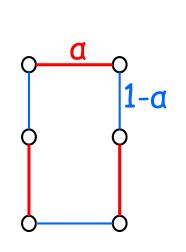
$$\begin{array}{ll} \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 & \forall v \in V \\ \sum_{e \in \delta(U)} x(e) \ge 1 & \forall U \subseteq V, |U| \text{ is odd} \\ x(e) \ge 0 & \forall e \in E \end{array}$$

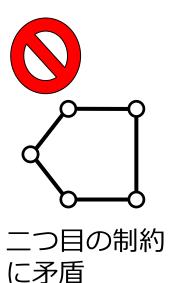
定理 [Edmonds 1965]

(LP<sub>min</sub>) の制約式は完全マッチング多面体を定める

【証明】P=完全マッチング多面体, Q=制約式が定める多面体

- ▶ P⊆Q:簡単
- ightharpoonup Q $\subseteq$ P を示す.  $x \notin$ P をみたす Q の頂点 x が存在したとする
  - |V| + |E| 最小の例をとる
    - **→** 0 < x(e) < 1 ∀e∈E
    - $\rightarrow$  deg(v)  $\geq$  2  $\forall$  v  $\in$  V
    - → |E| ≥ |V|
  - ◆ |E| = |V| の場合
    - → 閉路の disjoint union
    - → 完全マッチングの凸結合





### 整数性の証明

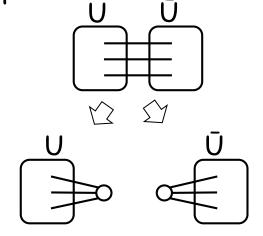
Q(G) 
$$\sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 \quad \forall v \in V$$
  
 $\sum_{e \in \delta(U)} x(e) \ge 1 \quad \forall U \subseteq V, |U| \text{ is odd}$   
 $x(e) \ge 0 \quad \forall e \in E$ 

- ◆ |E| > |V| の場合
  - xは |E| 本の制約を等号でみたす

→ 
$$\exists$$
 U  $\subseteq$  V,  $x$ ( $\delta$ U) = 1 and 3  $\leq$  |U|  $\leq$  |V| - 3

- x', x":xのG/Ū, G/Uへの射影
  - →  $x' \in Q(G/\bar{U}) = P(G/\bar{U})$  $x'' \in Q(G/U) = P(G/U)$

$$\Rightarrow$$
 x' =  $\frac{1}{k} \sum_{i=1}^{k} \chi_{M'(i)}$ , x" =  $\frac{1}{k} \sum_{i=1}^{k} \chi_{M''(i)}$ 



- → ∀i∈[k], M'(i)∩δU = M"(i)∩δU としてよい
- →  $\forall$ i∈[k], M(i) = M'(i)  $\cup$  M"(i) は G の完全マッチングで  $\mathbf{x} = \frac{1}{k} \sum_{k=1}^{k} \chi_{M(i)}$  となって矛盾 【証明終】

#### 最大重みマッチングの線形計画表現

(LP)

 $\overline{\text{max}}$ .  $\sum w(e) x(e)$ 

sub. to  $\sum_{e \in \delta(v)} x(e) \le 1$   $\forall v \in V$ 

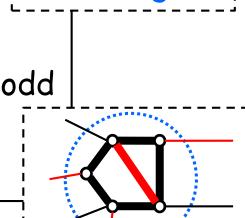
$$\sum_{e \in E[U]} x(e) \le \frac{|U|-1}{2} \quad \forall U \subseteq V, |U| \text{ is odd}$$

$$x(e) \ge 0$$



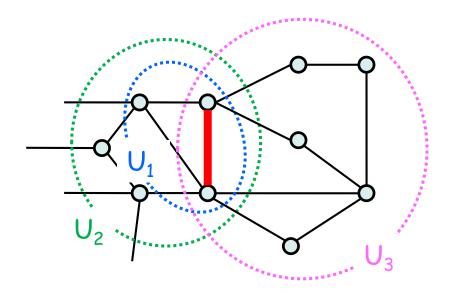
(LP) は 整数最適解 x\* をもつ i.e., (LP) の制約式は整数多面体を定める

【演習】証明せよ



### 双対問題

#### (Dual-LP)



#### 完全双対整数性

$$y(u) + y(v) + \sum_{U: u,v \in U} z(U) \ge w(e)$$

$$y(v) \ge 0$$

$$z(U) \ge 0$$

定理 [Cunningham & Marsh 1978]

w が整数のとき, (Dual-LP) は 整数最適解 (y, z) をもつさらに,  $\mathcal{F}$  =  $\{U \subseteq V \mid z(U) > 0\}$  がラミナー集合族をなす整数最適解が存在する

$$U_1, U_2 \in \mathcal{F}$$
 $U_1 \subseteq U_2 \text{ or } U_1 \supseteq U_2 \text{ or } U_1 \cap U_2 = \emptyset$ 

定理

(LP) の制約式は 完全双対整数性 をもつ

Rational system Ax < b が完全双対整数性をもつ

#### ここまでのまとめ

**G**: 一般グラフ

```
(LP)

max. wx

s.t. Ax \le 1,

x(E[U]) \le \frac{|U|-1}{2}

x \ge 0
```

- > マッチング多面体を定める
- > 完全双対整数性をもつ
  - → (LP), (Dual-LP) ともに 整数最適解をもつ

min. 
$$\sum_{v} y(v) + \sum_{U} \frac{|U|-1}{2} z(U)$$
  
s.t.  $y(u) + y(v) + \sum_{U \ni u,v} z(U) \ge w$ ,  $y,z \ge 0$ 

(双対定理)



- ◆ 2部グラフのマッチング
- ➤ Kőnig の定理
- ▶ 増加道アルゴリズム

- ◆ 一般グラフのマッチング |
- ➤ Tutte-Berge 公式
- ➤ Edmonds のアルゴリズム
- > Edmonds-Gallai 分解

- ◆ 2部グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- > 完全単模性

- ◆一般グラフの重みつきマッチング
- ▶ マッチング多面体
- ➤ 完全双対整数性 (Cunningham-Marsh公式)

◆周辺の話題

# 参考文献

- 浅野: 情報の構造 上. 日本評論社, 1994.
- 伊理, 藤重, 大山: グラフ・ネットワーク・マトロイド. 産業図書, 1986.
- L. Lovász, M.D. Plummer: *Matching Theory*, AMS Chelsea Publishing, 2009.
- K. Murota: Matrices and Matroids for Systems Analysis, Springer, 2010.
- ➤ G.L. Nemhauser, L.A. Wolsey: *Integer and Combinatorial Optimization*, Wiley, 1988.
- > A. Schrijver: *Combinatorial Optimization---Polyhedra and Efficiency*, Springer, 2003.
- ▶ 高澤: マッチング. 薩摩順吉, 大石進一, 杉原正顕 (編), 応用数理ハンドブック, 朝倉書店, 2013, pp. 288-289.

# **Related Topic**

# Finding 2-Factors Closer to TSP Tours in Cubic Graphs

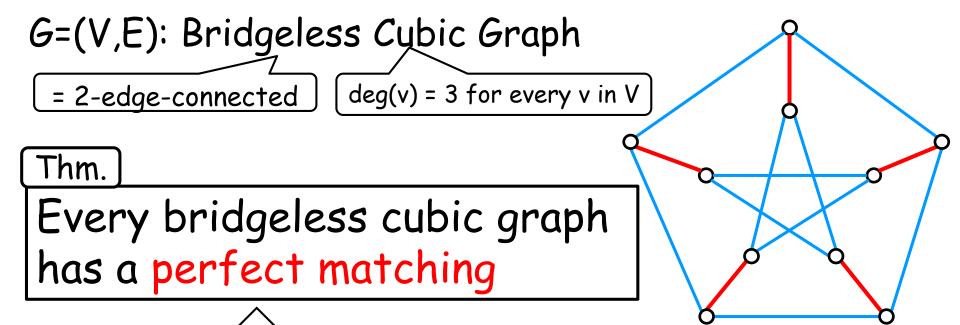
Sylvia Boyd (U. Ottawa)

Satoru Iwata (U. Tokyo)

Kenjiro Takazawa (Kyoto U.)

11th COSS July 30, 2014

#### Petersen's Theorem [1891]



Every bridgeless cubic graph has a 2-factor

# Schönberger's Theorem

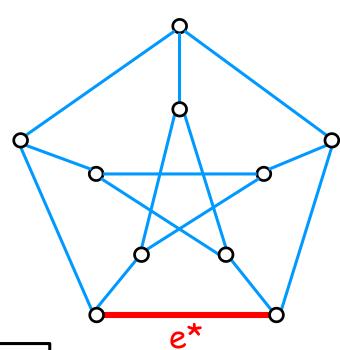
[1935]

G=(V,E): Bridgeless Cubic Graph
e\* in E

#### Thm.

G has a perfect matching including e\*





G has a 2-factor excluding e\*

> O(n log<sup>4</sup> n) algorithm
[Biedl, Bose, Demaine, Lubiw 2001]

# Kaiser & Škrekovski's Theorem

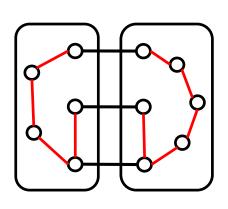
G=(V,E): Bridgeless Cubic

[2008]

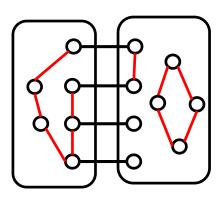
e\* in E

Thm.

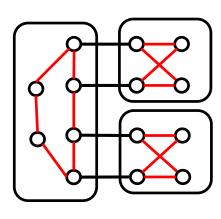
G has a 2-factor excluding e\* and covering all 3- and 4-edge cuts



3-edge cut



4-edge cut

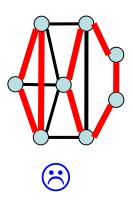


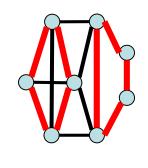
Not a 4-edge cut

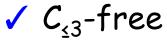
### **2-factors and TSP Tours**

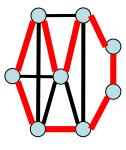
■ TSP tour = 2-factor of one cycle of length n

 $\rightarrow$  2-factor without cycles of length k or less:  $C_{\leq k}$ -free 2-factor (in simple graphs)









# **Complexity of C**<sub>≤k</sub>**-free 2-factors**

	Unweighted	Weighted
k ≥ 5	NP-hard [Papadimitriou '80]	NP-hard
k = 4	(a) OPEN	(b) NP-hard [Vornberger '80]
k = 3	(c) P [Hartvigsen '84]	(d) OPEN
k = 2	P	P

#### Subcubic graphs

- (a): P [Bérczi & Végh '10]
- (c): P [Bérczi & Végh '10, Hartvigsen & Li '11]
- (d): P [Vornberger '80, Kobayashi '10, Hartvigsen & Li '13]

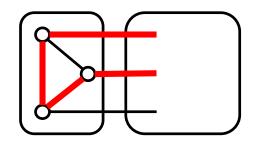
#### Bipartite graphs

- (a): P [Hartvigsen '06, Pap '07]
- (b): NP-hard for general weight [Király 00]

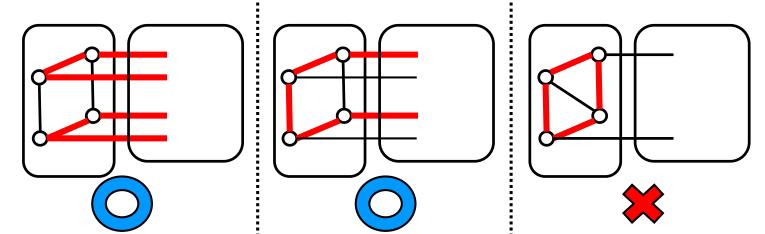
P if the weight hass a special property [Makai '07, T. '09]

# **2-factors Covering Cuts**

- TSP tour = 2-factor covering all edge cuts
  - 2-factor covering prescribed edge cuts
- G: Cubic
  - > 2-factor covering all 3-edge cuts
    - $\rightarrow C_{\leq 3}$ -free



- G: 3-edge-connected cubic
- $\gt$  2-factor covering all 3,4-edge cuts  $\Rightarrow C_{\leq 4}$ -free



#### **Our Results**

- (1) An O(n³)-algorithm for finding a min.-weight 2-factor covering all 3-edge cuts in bridgeless cubic graphs
   Polyhedral description
- (2) An O(n³)-algorithm for finding a 2-factor covering all 3-, 4-edge cuts in bridgeless cubic graphs
  - > Constructive proof for [Kaiser, Škrekovski 2008]

Application

- (3) A 6/5-approx. algorithm for the minimum 2-edge-connected subgraph problem in 3-edge-connected cubic graphs
  - > Start with the 2-factor found by Algorithm (2)
  - > Previous ratio: 5/4 for 3-edge-connected cubic graphs [Huh 2004]

#### **Contents**

Introduction

- (1) An O(n³)-algorithm for finding a min.-weight 2-factor covering all 3-edge cuts in bridgeless cubic graphs
   Polyhedral description
- Summary

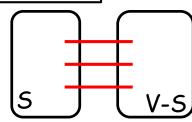
- (1) 2辺連結3正則グラフにおける, すべての3辺カットと丁度 1 本の辺で交わる 完全マッチングで最小重みのものを求めるアルゴリズム
  - 多面体的表現

3-カット完全マッチング

### 多面体的表現

$$\begin{split} & \sum_{e \in \delta(v)} x(e) = 1 \quad \forall v \in V \\ & \sum_{e \in \delta(U)} x(e) \ge 1 \quad \forall U \subseteq V, \ |U| \text{ is odd} \\ & \qquad \qquad x(e) \ge 0 \quad \forall e \in E \\ & \sum_{e \in \delta(S)} x(e) = 1 \quad \forall S \subseteq V, \ \delta(S) \text{ is a proper 3-edge cut} \end{split}$$

• A 3-edge cut  $\delta(5)$  is proper  $\langle \longrightarrow \rangle 2 \leq |5| \leq n-2$ 



#### 定理

上記の制約式は 3-カット完全マッチング多面体を定める

#### 【証明】

P=3-カット完全マッチング多面体, Q=制約式が定める多面体

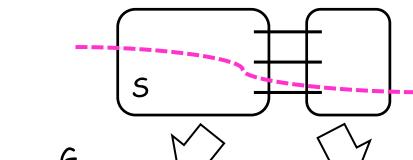
▶ P⊆Q:簡単

- ▶ Q⊆P を示す: x\*∈Q を3-カット完全マッチングの凸結合で表す
- > x\*∈Q⊆[完全マッチング多面体]
  - → x\* = ∑; λ; χ<sub>M</sub>; 完全マッチング {M;} の凸結合
- $\sum_{e \in \delta(S)} x^*(e) = 1$
- $\sum_{e \in \delta(S)} \chi_{Mi}(e) \ge 1 \implies \sum_{e \in \delta(S)} \chi_{Mi}(e) = 1 \forall i$
- i.e., M<sub>i</sub> は 3-カット完全マッチング ∀i

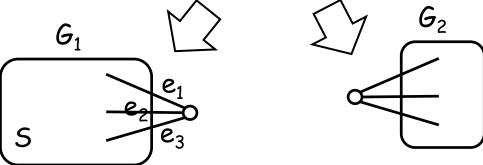
【証明終】

# アルゴリズム

(1) Find a proper 3-edge cut  $\delta(S)$ 



- (2) Contract V S, S
  - → Smaller bridgeless cubic graphs



- (3) For i = 1,2,3, find a min.-weight perfect matching M; including e;
- (4) For i = 1,2,3, let  $w(e_i) := w(M_i)$
- (5) Recurse in  $G_2 \rightarrow N$   $\rightarrow$  return  $M = M_i \cup N$

M intersects all 3-cuts with 1 edge: Proven by submodularity

#### **Summary**

- For bridgeless cubic graphs:
  - > A 2-factor covering all 3- and 4-edge cuts: Algorithm
  - > A min-weight 2-factor covering all 3-edge cuts:
    - ✓ Algorithm
    - ✓ Polyhedral description
- For 3-edge-connected cubic graphs
  - ➤ 6/5-approx. algorithm for the min. 2-edge-connected subgraph problem

#### Open Problems

Min-weight 2-factor covering all 3- and 4-edge cuts in bridgeless cubic graphs

6/5-approx. algorithm for the min. 2-edge-connected subgraph problem in *bridgeless* cubic graphs